

Oita Yufumi


**VOL.20**

Hospital

発行/令和5年6月

大分ゆふみ

病院たより

 大分ゆふみ病院





## 院長よりご挨拶

### 「ウィズコロナ・アフターコロナでのホスピスケア」

一万田 正彦 《いちまたまさひこ》



令和2年の春以降、新型コロナウイルス感染症の影響で、私たちの生活は一変しました。日常生活はいろいろと制約を受け、感染の不安を抱えながらの日々を過ごすことになりました。医療機関や高齢者施設では、ご家族の面会が制限されるようになりましたが、大分ゆふみ病院でも、患者さんへの面会は、一部近親者のみに制限せざるを得なくなりました。そのために、患者さんやご家族が不安に感じるものがあつたり、会えなくて辛い思いをされることがありました。また感染予防のために、病院内で行われていたボランティア活動の休止や季節のイベントを縮小することになりました。それから制限された期間が3年余り続いた後に、ウィズコロナ・アフターコロナの状況となり、ようやく以前のような日常に戻りつつあります。そこで私たちスタッフは、今年度をホスピスらしさを取り戻す年にしたいと考えています。静かで落ち着いた環境の中、患者さんはご家族と共に穏やかな時間を過ごしていただくために、私たちスタッフは精一杯関わっていきたくと思います。患者さんはいろいろな苦悩を抱えています。私たちは身体の苦痛症状をできる限り和らげ、こころの重荷を少しでも軽くできるように関わり、ささやかながらもこれまで諦めていた日常を取り戻せるようにサポートしています。困難な時であるからこそ、周りの人の支えが必要になります。人と人とのかわりを大切に、ホスピスでのケアを行っていく中で、患者さんやご家族が笑顔を見せてくれた時は、私たちにとっても大きな喜びとなります。そのような機会をこれからもっと増やしていきたいと思っています。

時代が変わり、医療も進歩し、世の中の状況が変化していく中で、専門的緩和ケアの提供施設である大分ゆふみ病院は、がん患者とその家族の支えとなるべく日々精進を重ねております。そしてウィズコロナ・アフターコロナにおいて、これまで以上にホスピスケアを十分に行うことで、患者さんご家族にとって「ここに来て良かった」と言っていたような病院を目指しています。

大分ゆふみ病院が、がんで苦しむ、患者さんやご家族の支えの一助となれば幸いです。



外観



中庭の様子

## ご家族からの手紙をいただきました

### 「素敵な日々をありがとうございました」

木村 昌子 《患者様のご家族》



母が亡くなり早いもので一年がたちました。まだどこかに居るような、家に帰れば笑顔で「おかえり」と迎えてくれるような気すらします。気が遠くなりそうなショックを受けた病気の告知から何とかできる限りの治療をと、放射線や抗がん剤治療を受けてきましたが、他の病気が悪化したため治療の中止を余儀なくされました。そのときほど悲しくて、苦しくて、寂しいものではありませんでした。その後緩和ケアを考え、治療を受けていた病院のソーシャルワーカーさんより大分ゆふみ病院を紹介していただきました。入院前に母と見学し、最初の印象が病院らしくなく避暑地のホテルでも訪れたような素敵な雰囲気感触に別世界に来たようでした。まもなく入院が決まり、余命が残されていないことを聞いた後は普段通り母と顔を合わせることは困難なことが多くありましたが、安心感を与えてくださる医師、何でも話せ相談に乗ってくださる看護師さん、スタッフの方々にどれほど救われたことか分かりません。看護師さん達が病室に来られ母と私をその中に加えてくださり、まるで“女子会”のように楽しくお話をさせていただいたり、おしゃれの好きだった母にマニキュアをしてくださったり、私が幼いときは厳しいところもあった母が、皆の優しさに触れ徐々に素の母、まるで少女のように皆に甘えていました。娘の私からは母の別の面を見て、またその母をしっかり受け止めてくださることに頭が下がる思いでした。初夏からの入院でしたので、体調の良いときは病院内の庭に出て散歩を楽しみました。庭の木々、花々、きれいな野鳥の鳴き声に包まれ、まるで旅にでも出かけて今まで治療で苦しかったことを癒してくれているような時間は、不思議なくらいの安堵感に包まれておりました。院長先生のオカリナ演奏会に誘ってくださり二人で懐かしい曲に聴き惚れておりました。絵を描くことが好きだった母と庭に咲いている季節の花や以前旅行した時の写真から一緒に絵を描く時も与えられました。普段通りの時を過ごしながら、最後の時が近くなり、楽しく過ごすことが上手だった母に「楽しいことをたくさんしてくれてありがとうね」と伝えました。母も“にこっ”と笑いながら懐かしそうにうなずいていました。このコロナ禍、もしゆふみ病院に来ることができていなかったら、どうなっていたことかと思えます。家族の病気や死はつらいことですが、病院の方達がいつも家族のように関わり、受け止めてくださったことは“感謝”という言葉しか表す言葉を見つけられません。母が信頼している大好きな人達、私達夫婦にかこまれ母を送ることが出来たことは、心からこの病院に来て良かったと思えました。終わりにになりましたが、一万田先生、中野先生、担当看護師さん達、病院スタッフの方達、支えてくれた夫には大変感謝いたします。今はコロナ禍で大変な毎日をお過ごしと思われると思いますが、どうぞお身体を大切にしてお過ごしください。私も皆様への感謝の気持ちと母の思い出を大切に持ってこれから生きていきたいと思っております。



## 春

Spring

春の陽気のもと、ウツドデッキで中庭を眺めたり、お花見や散歩を楽しんだり微笑みが咲き誇ります。

青空の下でたれ桜のピンクがよく映えます。



春になるとたくさんの花が鮮やかに咲きます。



大好きなお母さんと散歩に行けてうれしいなあ！

## 秋

Autumn

澄み渡る空のもと、院内の木々が色鮮やかに装い、心地よい空気に包まれて皆の笑顔がこぼれます。

お誕生日のお祝いをしました！みなさんととてもいい笑顔です♡



院内の裏庭は、秋の色に染まり美しい景色が広がります。



可愛いうさぎさん☆お月見団子まるかじり

## 夏

Summer

あふれる緑に誘われて、中庭の散歩道に出ると、鳥のさえずりが響き渡り、気持ちのいい時間です。

中庭から当院を撮った様子。敷地内は多くの木々に囲まれ心が安らぎます。



扇子片手にハイ♡ポーズ♡浴衣も着て、祭りばやしに心躍ります♡



いつも言葉にできない奥さんへの思いを…見つめ合って…

## 冬

Winter

ラウンジの薪ストーブに火が灯り、患者さんや訪れる方々も穏やかなひととき、緩やかに心温まります。

ほっこりと体も心も温まる薪ストーブ♪



鬼とともにピース。満面の笑顔になりました。



奥さんの誕生日に初めて花のプレゼントを…♡



## ホスピスボランティア活動について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ホスピスボランティア活動が休止して、4年目になりました。それまでは毎週月曜日から土曜日まで曜日別ボランティアの皆さんが、それぞれの特技や特性を活かした活動を行い、病棟の中心にあるラウンジは笑顔や笑い声が絶えない素敵な空間でした。患者さんとボランティアスタッフの会話はあらゆることに及び、街の様子や季節の移ろいなどを伝えることで、社会の風を運び込んでいました。

新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、各医療機関は面会制限の見直しを行い、少しずつコロナ以前の状況に戻り始め、ボランティア活動も感染状況を注視しながら、一部で再開の兆しが出てきました。

患者さんやご家族に寄り添う気持ちを大切にされるボランティア活動はホスピスの特質の一つで、その活動を少しでも早く再開できることを願っています。



## リレー・フォー・ライフ大分 2023

毎年開催されているリレー・フォー・ライフ（RFL）大分は、コロナ禍でも開催時間を短縮したり、参加人数を制限する等して、開催を継続してきました。

今年は4年ぶりに夜間ウォークも再開されます。

大分ゆふみ病院は第1回大会から毎年参加をしています。

今年も患者さんやご家族の力になれるように、多くの職員がタスキをつなぎます。



2023年大会は、9月23日（土）～24日（日）に開催されます。

ホームページに『看護師ブログ』を掲載しています。ぜひ、ご覧ください！

大分ゆふみ病院 検索

## ■研修・施設見学受入れ状況（2022.4.1～2023.3.31）

### 研修

看護学生研修 40名（大分大学医学部看護学科）

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、実習の一部受入を制限しています。

### 施設見学

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、患者さん、ご家族以外の施設見学を原則中止にしています。

※入院患者さん、ご家族には、ご迷惑をお掛けしないよう細心の注意を払っていますのでご協力をお願い致します。

## ■ホスピス診療記録（2022.4.1～2023.3.31）

### ■入院患者数

165名（男性84名、女性81名）

### ■平均年齢

76歳（男性77歳、女性75歳）

### ■住所分布

大分市106名、大分市外59名  
（大分市外：由布市17名、別府市13名、佐伯市7名、津久見市4名ほか  
 県内市町18名）

### ■紹介元病院

大分大学医学部附属病院、大分県立病院、大分赤十字病院、別府医療センター、厚生連鶴見病院、大分三菱メディカルセンター、大分岡病院、大分中村病院、永富脳神経外科病院、うえお乳腺外科、大分医療センター、新別府病院、九州大学病院別府病院、津久見中央病院、国東市民病院、南海医療センター、やまおか在宅クリニック、けいわ緩和ケアクリニック、だいかく病院、児玉病院、大分市医師会立アルメイダ病院、ハートクリニックほか

### 入院までの流れ

#### ①入院相談

電話で入院の相談を行った後、まず患者さんの容態など現状を伺います。また、入院相談外来や見学を希望の方は、来院日時のお約束をします。

#### ②入院相談外来（医師による診察面談）

入院希望の方は、患者さんご本人またはご家族に対し、医師による診察と面談が行われます。また施設の見学もできます。  
 ※紹介状と検査データなどを持参していただきます。

#### ③入院判定会議

医師、看護師長、医療ソーシャルワーカー（相談員）によって行われます。

#### ④会議の入院決定の連絡

患者さんまたはご家族に入院の適否、日程について連絡をします。

#### ⑤入院

相談員、または医師が患者さん、ご家族、紹介元病院と連絡を取り、入院の調整を行ないます。

### 病院理念

## 大分ゆふみ病院は『今を生きる』患者と家族を支えます。

1. 患者と家族の権利と尊厳を守る診療・看護を実践します。
2. 心身の不快な症状の緩和につとめ、最善のケアの提供を目指します。
3. 家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
4. さまざまな職種とボランティアがチームを組み、ケアにあたります。
5. 大分県の緩和ケアの発展に寄与します。



## ご案内

入院をお考えであったり見学をご希望される方は、  
必ず電話予約をお願いいたします。

※予約をされていないと相談が重なり、対応できない場合やお待ちいただく場合がございます。

### ■入院の対象となる方

- 医師が治癒が期待できないと判断した悪性腫瘍の患者を対象とします。
- 患者と家族が入院を希望していることが原則です。
- 入院予約時に「病名・病状」について理解していることが原則です。
- 社会的、経済的、宗教的な理由によりお断りすることはありません。

### ■がん疼痛緩和外来 [要予約]

がんによる痛みやしびれなどでお困りの方、また、痛みにより眠れない方など、どなたでも外来受診に応じます。専門の緩和治療医が対応しますので、お気軽にご連絡ください。※要予約

### ■在宅を希望する方

ご自宅で生活を希望する方は、必要に応じて、訪問診療医、訪問看護、ヘルパーと連携いたします。

### ■講演依頼を承ります

緩和ケア・ホスピスについてわかりやすい内容で、講演活動を行っています。お気軽にご相談ください。

### ■ホスピスセミナーを開催しています

ホスピスケアをより多くの方に知っていただくために、ホスピスセミナーを春・秋の年2回、開催しています。詳細につきましては、ホームページをご覧ください。(http://oitayufumi.com)



まず、相談窓口へお電話ください。

☎097-548-7272

電話受付時間 / 月～金曜日 AM9:30～PM4:30(祝日は除く)

#### 交通のご案内

- バスをご利用の場合  
大分駅より大分交通<机張原>行き、  
上金谷迫停留所下車。
- 車をご利用の場合  
大分駅より車で15分、大分インターより車で5分